

団体名 八重瀬町立ぐしかみこども園	連絡先 TEL : 098-998-3644 Eメール : g-kodomo@town.yaese.lg.jp
-----------------------------	------------------------------------------------------------

1 実践事項 (①)

タイトル：「八重瀬町保こ小連携 ～ぐしかみこども園公開保育・合同研修会～」

2 実践内容

- (1) 公開保育前の保育参観と指導案検討会
- (2) 生活の中での「思考力の芽生え」を読み取り、工夫した指導案とドキュメンテーションの作成
- (3) ぐしかみこども園 公開保育・研究協議会

3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)

(1) 公開保育前の保育参観と指導案検討会

- ①日時 令和5年7月13日(木) 9:00~11:00 / 令和5年7月21日(金) 14:00~15:00
- ②内容 小学校区内の保育園、小学校職員が来園し、子ども達がどういった遊びをしているのか、環境構成や保育者の援助についてを視点に参観を行う。また、21日には指導案をもとに、幼児の姿、ねらいや内容、遊びの様子について話し合う。



《保育園・小学校職員が保育参観を行う》



《指導案の検討会》

【指導案検討会】

小学校職員からの感想

- 子ども達が自分で遊びを選び、遊び出す姿が見られた。発見や気づきが生まれるような環境だと感じた。子どもが主体となり考えたり遊びを創り上げていくことがわかった。
- 子ども達がやりたいことを一生懸命やっている姿が印象的だった。保育者は子どもの考えを引き出したり、自ら考えられるように促すような言葉かけをしていると感じた。
- 授業では、先生が先に出て教えようとしたり、こう言ってごらんとすぐに声をかける部分がある。こども園では、子どもに気づかせるような援助をしていることがわかった。

質問

Q 小学校) 色々な場で遊びが展開されているが、先生が援助をする場所をどうやって決めているのか。

A こども園) 保育者が関わることでより遊びが楽しくなったり、展開しそうな遊びを予測し、必要に応じて関わっている。

職員間で遊びについての共通理解を図り、どの職員が関わっても同じような援助が

できるようにしている。色々な保育者と関わることで、子ども達は、担任にはない刺激を受けることができている。

保育園) 保育園でも、同じように職員間での共通理解を大切にしている。今回、保育参観をすることで小学校の先生が感じた疑問を知り、答えることができる機会となった。

保こ小連携コーディネーター) 小学校の授業でも、個別で対応している部分は同じ。一人一人の状況を把握して関わっていることは、保育園、こども園とつながっている。

(2) 生活の中での「思考力の芽生え」を読み取り、工夫した指導案とドキュメンテーションの作成

本園の保こ小連携のテーマである「思考力の芽生え」とは子どもの
どういう姿なのか、どういった時に見られるのか”について職員間
で話し合い、共通理解を図る。その後、「思考力の芽生え」に関するド
キュメンテーションを作成し、職員間で共有する。また、小学校や保
育園の職員に遊びの中での学びや経験が分かりやすいよう、指導案に
それぞれの遊びの様子と環境構成、教師の援助に加え「幼児が経験
していること」を読み取り、記入した。



エピソードの中から「思考力の芽生え」が感じられた部分を波線で示す

幼児のつぶやきや表情、会話、行動からの保育者の読み取りを記入する

幼児の姿や環境構成、教師の援助に加え、遊びの中で幼児が経験していることを読み取り、記入する

《ドキュメンテーションの作成》

《幼児の経験していること記入した指導案》

(3) ぐしかみこども園公開保育・合同研修会

日時：令和5年9月27日（水） 9：00～12：00

公開保育

本町の保こ小連携の取り組みの一環として、公開保育を行う。



《遊びのきっかけや過程を保育者に聞いたり、子どもに問いかけたりする参加者》

合同研修会

公開保育で読み取った、幼児の「思考力の芽生え」が現れている姿を保こ小職員で話し合い、講師より助言をもらう。

【グループ協議】

視点①「思考力の芽生え」が見られた場面はどこだったか。

視点②園での「思考力の芽生え」が小学校のどのような場面につながるか。

- ヤゴを捕まえている子がいた。日々、試したり、考えたり、「あー、こうじゃない」と繰り返したりする経験が思考力の芽生えにつながっていると感じた。
- おしゃれ屋さんでブレスレットを作ってもらった。お客さんの手首の長さを図り一人一人に合わせたサイズにし、飾り付けもセロハンテープやハサミ等、必要な道具を選んで使い、大人が作業をするようにスムーズ作っていった。日々の製作遊びの経験が表れていた。
- 「こうしたらいいかも」「こんなのあったよ」と子ども達自身が気付き、伝えて、試行錯誤する。その経験の積み重ねが小学校で“よりよいものを作っていく”“よりよいものに向かっていく力”となると感じた。
- 保育室の環境や資料を通して、その子の興味・関心から遊びが展開し、広がっていった様子がわかった。また、遊びの場を残すことで明日以降へと遊びにつながる。黒板に書かれたウェビングマップで、子ども同士で遊びが共有されていた。
- 保育室内でカバマダラを飼育しており、羽化に至るまでの過程を説明してもらった。実際に見て、日々の変化への気付きや感動体験をするからこそ、実際の様子をその子なりの言葉で説明できるのだろう。

【指導助言】

- 「思考力の芽生え」とは、思いつきやひらめき等、瞬発的な気づきを伴う思考の発露。幼児期における思考はまず、楽しいこと。楽しい遊びの中から思考力、判断力が芽生える。
- 保育者がどのタイミングでその子たちに働きかけるかによって、思考のギアが入る。子どもが何かに熱中するにはポイントがある。そこに向けて保育者に何ができるのかを考える。
- 保育は、環境を通しての教育と言われ、環境を丁寧に見ないといけない。保育者が「もっとこういう経験をしてほしい」というものが、あまり見られなかった。今日この瞬間、子どもに新しい遊びが生み出せていたか、生み出すために先生たちが新しい環境構成や意識的な働きかけをしたかが見えにくかったことが課題。
- 要領、解説書に沿うことは重要だが、解説書のキーワードの言葉を使わずに自分たちの言葉で考えること。同じ「試行錯誤」でも、子ども一人一人によって様相は違う。そこを読み取り自分たちで言葉を作り出していく。



4 成果

- 遊びの中での「思考力の芽生え」を職員間で読み取り話し合う中で、幼児なりの思考する姿が明確になり、共有することができた。また、“遊びの中での経験”を指導案に書き加える中で、保育者自身が幼児の様子をよく見ようとしたり、職員間で話し合ったりすることを通して幼児理解につながった。
- 「思考力の芽生え」をテーマにした、公開保育・合同研修会を通して、多くの先生方に普段は気付かなかった“子どもの思考する姿”を読み取ってもらったことで、新たな気付きや学びとなった。また、小学校教諭からの感想のから子ども達の日々の生活が小学校での生活につながっていることを確認することができた。

5 課題

- 生活の中で見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を読み取り、幼児理解につなげていきたい。
- 指導助言での課題が解決できるよう、職員間で考えていきたい。